

神籠石の時代とその背景

七世紀は国内外ともに激動の時代でした。朝鮮半島では、統一をもくろむ新羅が唐と協力し、660年に百済を滅亡させました。百済と友好関係にあった我が国は、復興運動を支援するため、半島へ出兵します。

しかし、齊明天皇が朝倉宮で急死、663年には白村江の戦いで大敗北します。唐・新羅連合軍の侵攻を防ぐため、朝鮮式山城があわてて築かれました。

その後、中央政権は戦争の危機を利用し、国内支配体制を整えていきます。神籠石がいつ築かれたのかは未だに謎ですが、朝鮮式山城の前後だと考えられています。

■日本における古代山城の分布



■白村江の戦い関係図と七世紀後半の東アジア